グループホームひかり　　記入日：平成21年11月20日

（様式１）

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として、「その人らしく暮らす家」という理念を揚げており、地域との交流を大切にしながら、職員間で統一したケアが出来る様に、検討している。		日々の話し合いの中で、その方の好きな事、したい事を引き出し、実践に心がけており、おのずと理念へとつながっている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼や日々の介護の中、カンファレンス等の際に入居者の方への具体的な対応等話し合っている。	○	日々の話し合いの中で、その方の好きな事、したい事を引き出し、実践に心がけており、おのずと理念へとつながっているが、日々、検討を重ね取り組んで行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には、地域の中で暮らして行ける様に随時話している。また、運営推進会議を利用し、民生委員様へも、話をしている。	○	グループホームの理念や役割について、民生委員様の会議に参加し、報告させて頂きましたが、今後も継続し発信し続けて行きたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に、買い物やお散歩等に出かけ、近所の方と挨拶を交わしたり、話をしている。また、近所の方からは、野菜やお花を頂いている。	○	事業所の納涼祭等に、招待をし来て頂いているが、日常的では無いので、今後も、気軽に立ち寄って頂けるように、検討して行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等には必ず参加し、近所の知り合いの方に会う等の交流ができている。	○	地域の行事には必ず参加するようにしている。民生委員様の会議に参加したが、今後も継続的に参加できる様にして行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員様の会議に参加し、認知症グループホームの啓発に努めている。また、ホームでは、実習生の受け入れもしている。	○	グループホーム職員が、今後も認知症を理解して頂く為の発信源になって行けるように、運営推進会議の委員の方々の意見を拝聴し、検討していく。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価では日々の介護の再確認となり、外部評価ではこれまでのハード面への対応や、記録等の改善に取り組んできた。	○	検討課題は他にもあるが、今回の自己評価、外部評価をもとに検討を重ねて行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方々には、ホームでの取り組みやサービス評価について説明し、意見を出してもらい取り組んでいるが、取り組みとして不十分な物がある。	○	地域への啓発、連携が今後の課題となっているので、会議を通して今後も検討して行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故発生時、報告書提出、医療連携等に関する助言等を頂き、サービスの質の向上に努めている。	○	今後も、認知症に対して地域への発信源になるような、取り組みについて助言を頂き、検討して行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今年度は、制度について学ぶ機会をとる事ができなかったが、実際に利用者の方で、青年後見制度を利用されている方があった。	○	外部研修、内部研修に係わらず、勉強会の計画を立て、必要な方には、それらを活用して頂ける様な支援ができる様にしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	今年度は、制度について学ぶ機会をとる事ができなかった。	○	今後も人権事故係りを中心とし検討を重ねて行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時に十分説明を行い納得してもらえるようにしている。	○	入退居後も疑問や質問等出てくる場合があるので、随時説明をしていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自分の意見を自由に言えるように、また、コミュニケーションの中から思いを引き出し、話せる環境を整えている。また、個人の希望により外部者へ話せる機会も設けている。	○	今後もコミュニケーションを多くとり、意見を引き出していくようにする。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料請求時に近況報告の手紙を添えたり、ご家族面会時に直接報告、状況により電話等での報告、また、個人のアルバムや広報誌を作成等して、個々に合わせた報告をしている。	○	今後も定期的、また、個々に合わせて報告できるようにして行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来居時には、意見の情報収集に努めており、意見や不安等について表せる機会を設けている。外部者へは具体的には表せてないようで、外部者からの情報は無い。	○	入居説明時に、パンフレットを利用し外部の相談機関の説明をするようにした。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や普段のコミュニケーションの中から、提案を聞き出すようにしている。しかし、十分反映されているとは限らない。	○	今後も、管理者は職員の意見を引き出す努力をし、運営者に伝え反映を期待したい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族の要望や行事等ある場合は、職員の員数、時間帯を考慮できるような勤務体制をとっている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は、極力最小限にしている。	○	新職員の場合、入職前に触れ合う機会を作り顔なじみになるようにしていく。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じ、法人内外研修が受けられる努力をしている。本年度は、認知症介護リーダー研修を受講している。法人内研修では、随時勉強会を開き受講している。	○	研修の受講だけに収まらず、職員に周知を図り内容の検討、随時勉強会にも役立てて行きたい。また、外部研修だけでなく、現状を考え内部研修や勉強会も進めて行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の避難訓練に参加し地域との連携の参考にさせていただく等せている。また、外部研修を通して他事業所と情報交換をし、サービスの質の向上に努めている。	○	十分な交流とは言えないので、相互訪問の機会を増やす等して、サービスの質の向上を図って行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	入居者や他職員の目を気にせず休める場所を確保している。また、職員間の親睦会を行ったり、法人職員、管理者が、随時職員への声掛けを行っている。	○	職員の不安や不満、希望等を相談できるように、コミュニケーションに力を入れたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、月１回の定例会を通し管理者と情報交換をし、常に向上心を持てる様な言葉を発信しており、各事業所の会議を通し、運営者の思いを伝えている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人自身からの情報は少なく、家族からの情報がほとんどである。	○	今後は、本人からの情報を聞く機会を作っていくようにする。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間をかけ聞く機会を作っている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態を聞き、情報の提供をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個々の状態により、自宅や施設へ職員が会いに行ったりしている。また、開始前にホームにお茶を飲みに来てもらい、他利用者とコミュニケーションを図ってもらうようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	趣味、特技、裁縫、歌等を一緒にやりながら、入居者に教えてもらったり相談にのったりして、喜怒哀楽を共有している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居前や入居後の面会時等を利用し、家族と話す機会を作り、本人の状況や希望を伝え、一緒に支えて行ける様働きかけている。	○	今後も、多くの家族の方に、一緒に支えていくことの大切さを理解して頂く様に、働きかけて行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前や入居後の面会時等を利用し、職員は、家族と話す機会を作り関係の修復に努め、疎遠になりがちな家族へは、行事等への参加の呼びかけをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、本人から情報収集をして出かけたり、老人会や近所の人が会いに来たりできるように、家族の方に協力の声掛けや、馴染みの方に再度来居して頂ける様に声掛けをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶を飲む時やレクの時等、気のあう方と同じテーブルになってもらったり、他の方とのコミュニケーションの間に入る等して、関わりをもてるようにしている。また、生活の中でできない事を、できる利用者が手助けをしている。	○	職員がつい手助けをし過ぎてしまう所があるので、利用者同士の関わりがより深いものになるような、声掛け見守りをして行きたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族や退去後利用の施設、病院関係職員とコンタクトをとり、職員がその状況を知っている。	○	今後も、相談援助に応じられるようにしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとり意向の把握に努めている。困難な場合は、職員で意見を出し合い生活歴を探りケアをしている。	○	コミュニケーション以外にも、家族や外部者へ本音を言う時があるので、家族や外部者からの情報収集もし意向の把握に努める。意向の把握が困難な場合は、家族からの情報収集、個人の現在の状況分析をし検討していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、家族、利用施設より情報収集をしている。また、随時、情報収集をしている。	○	今後も情報の把握に努めて行き、職員間で情報の共有の徹底を図りたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々、その方の言動を大切にしながら記録に残し把握するようにしている。	○	その人のできる力、分かる力を見落とさず、記録に残して行きたい。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族から、生活歴や意向の聴取、居宅ケアマネ等関係職員からの情報収集を踏まえて、意見を出し合い介護計画を作成している。また、次の介護に繋がる記録の書き方をしている。	○	家族から、気づきや意見、要望が十分意伝えてもらえるような働きかけをしていきたい。また、本人からの十分な意向の把握にも努めて行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて介護計画の見直しをしている。変化が生じた場合は、随時、家族の意見を聴取していき話し合いを設け、申し送りノートを利用しプランの追加、変更をしケアの共通を図っている。	○	入居後２週間は暫定プラン、その後３ヶ月、６ヶ月、介護保険更新時等で更新している。一律なプランの期間になっているので、細かな期間の設定も検討していく必要がある。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、次の介護に繋がる記録に心がけている。また、情報の共有が図れるように申し送りノートを利用している。	○	情報の共有のレベルを高められるようにして行きたい。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの場所への外出や知人への訪問、検査の送迎等している。	○	他の介護保険サービス、自主サービスで利用できるものがあるか検討していく。
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事等でボランティアの方に来て頂き一緒に歌ったり、踊ったりしている。近所の知り合いの方が多いので、喜ばれている。	○	今後も一人ひとりの必要性を引き出していき日常的に協働できるように各方面との連携をを図って行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネとのコンタクトはとっているが、他のサービスは利用していない。	○	運営推進会議の委員である、他事業所のケアマネ、地域包括支援センターと連携を図り、必要に応じ他のサービスを取り入れて行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に行っていない。	○	地域連携とも繋がっていく可能性もあることから、地域包括支援センター職員が、運営推進会議委員となっているので、今後検討していきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態に応じ、家族の意向を伝えながら受診している。	○	今後も、本人の状態を適切に主治医に報告し、家族の意向もふまえながら、受診できるようにしていきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医と常に連携を図りながら、利用者の認知症に関する診断や治療を受けられるようにしている。	○	今後も、本人の状態を適切に主治医に報告し、家族の意向もふまえながら、受診できるようにしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の中に看護師がおり、日々の健康管理をしている。また、医院との契約により、週１回医院の看護師が訪問しており相談できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は書面にて情報提供し、その後は随時連絡をとっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	新たに、書面を作成し、状態に応じ家族や主治医と相談し方針を定めている。情報は、申し送りノート、職員会議で、共有を図っている。	○	本人や家族の全員かの情報が不十分な為、今後の段階を看ながら、方針を定めて行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	カンファレンスを開き、現状を把握し、主治医や看護師介護職員とで今後の変化に備え検討している。	○	今後も変化に備え、マニュアルの把握をし支援の共有を図り、対応できるようにしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の心身の状況を細かく生活歴を含め提供している。	○	今後も、十分な情報の提供をしていく。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に、本人や家族の視点に立って呼び方を考えている。本人の状態に合わせ「○○ちゃん」と呼ぶ場合は、家族に了解を取っている。個人に関する記録やメモを人前に放置していない。	○	個人情報保護について、具体的に話し合える機会を設け、日常的な確認と改善に向けて取り組んで行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションを多くとり、職員が断定した話し方をせず、問いかけるように希望を引き出せるような声掛けをしている。	○	さらに希望を引き出せるように表情、全身の反応を注意深く把握していく。断定的な言葉の表現にも注意していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や入浴、食事に掛かる時間等について、本人なりのペースで行えるように柔軟に対応している。また、コミュニケーションを通し、希望の把握に努めている。業務としての仕事はあるが、極力そういうものは利用者に感じさせず生活出来るように配慮している。	○	したいと思っている事の希望の表現が難しい方へは、コミュニケーションを取ったり、行動を見ながら、希望を引き出していくようにしていく。さらに本人一人ひとりのペースで今以上に過ごせるように検討して行きたい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は、本人の意向を聞き、希望に沿えるようにしている。現在は、出張の理容師を利用し、外部への美容室へは、出かけていない。	○	今後も毎日自分でしたい身だしなみや、おしゃれができ、本人の希望がかなえられるように支援して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が一人ひとりの好みを把握している。一緒に食事準備を行ない、準備をした時の事や季節の物について等の話をしながら食事を摂っている。また、畑の野菜を収穫し、好みの調理を一緒に行っている。	○	お勝手が分かりづらいところにある為、職員からからの声掛けで準備を行なっている。今後も、無理強いしないように本人の力量に合わせて声掛けをしていくようにする。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつを入居者個人で管理されている方がおり、入居者同士でおすそ分け等行っている。	○	今後も、本人の嗜好を引き出し楽しめるように支援をしていく。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、個人の排泄パターンを把握。トイレ誘導をし、昼間は紙パンツの使用のみに押さえ、夜間オムツ着用している。	○	定時の方もいるので、排泄パターンに合わせ対応できるように検討して行きたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居前に、家族や関係機関より情報収集をし一人ひとりに合わせている。夜間入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲れたら休むよう声掛けし、個人の希望で眠れるように支援している。	○	今後も生活歴や本人の希望、状態に応じ睡眠休息をとってもらえるように支援していく。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前に、家族や関係機関より情報収集をし、家事仕事、畑仕事、等の役割が持てるよう支援している。	○	認知症が進行しても支援していけるように、検討して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と相談し、希望により個人でお金を管理しており、買い物やお出かけ時に使えるようにしている。自分で管理することが困難な方にも、お財布をプレゼントして、お金の出し入れが出来る様に働きかけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩等の声掛けやコミュニケーションを図り、できる限り希望に沿うように支援している。	○	その日その時の希望に沿えられるよう、今後も検討を重ねて行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	コミュニケーションをとり、行きたい所を引き出し、家族に連絡したり、職員と行ったりしている。	○	近隣（市内等）は今後も取り組んで行きたいが、遠方への外出ができるように、家族とも連絡をとり検討して行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、かけられるように支援している。	○	家族とのやりとりは支援できているが、身内以外の大切な方との関係が途切れることのないように、検討して行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族への知人や友人の来居の依頼や、知人等の来居時は、再来居の声掛けをしている。	○	知人友人等、気軽に来居で着るように、また、外出時に会った際の、声掛けの工夫等検討して行きたい。
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為について職員間での周知が図れるよう、会議等で話し合っている。	○	職員全体が正しく理解し取り組めるように、ホーム独自のマニュアルを作成し検討して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は、本人の希望より、掛ける様にしている。玄関には鍵をかけてなく、庭を自由に散歩できているが、門扉には施錠している。	○	一時期門扉の開放をしていたが、利用者、職員の配置の状況により、現在は施錠している為、今後も、門扉を、開錠できる時間を増やせるように検討して行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で声掛けをし、随時所在を確認している。	○	今後も、見守りやすさを優先するのではなく、本人のプライバシーに配慮しながら見守りをして行きたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物等や異食、誤飲の可能性のあるもの等は、目に付かない所手の届かない所にしまっている。	○	一律になくすと言うことが無いよう、今後も検討を重ねて行きたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	随時職員間で話し合いをして記録に残し、再発防止のための検討を重ねている。火災等では、防災の手引きを利用し、職員会議で周知を図っている。	○	今後も更なる検討をして行きたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一般的なマニュアルがあり、消防署、または、法人内で救命救急の講習を職員が受講している。	○	法人内で救命救急の研修を年1回開催しているが、ホーム内でも定期的な訓練をして行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでの通報訓練、消火訓練、避難訓練のみで、地域の人達への協力の働きかけを行っていない。	○	地域の方との避難訓練の働きかけを検討している。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒や異色等に配慮しながら、拘束感や圧迫感を感じさせない様に、入居時や来居時に家族等に説明している。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサイン測定。また、気付いたことは、記録に残し申し送っている。	○	日頃から本人の状態を把握し十分な観察を行い、異常の早期発見に努めて行きたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が新しく処方になった時や、変更になった時は、薬の内容の用紙をカーデックスに挟んで置き、全職員が把握できる様にしている。また、変化等記録に残し主治医へ伝える様にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多いものを取り入れるようにしている。また、散歩や体操等で体を動かす機会を設けており、水分補給にも心がけている。	○	今後も食事や運動に配慮し、一人ひとりの体調に合わせスムーズな排便ができるように支援して行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、困難な方は状況に合わせて職員が支援するように努めている。	○	口腔ケアの必要性を把握し、一人ひとりに合わせた声掛けをして行きたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に、メニューを10日毎に作成し確認してもらっている。水分が少ない方には、食事以外のおやつ、他随時摂取してもらっている。	○	今後も一人ひとりの好き嫌いやその時の状態を把握し、個別的な支援をして行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し実行に努めている。	○	今後も多くの感染症について、一般的ではなく、独自のマニュアルを作成していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は随時買い物に行っており、新鮮なものを使用している。毎食後まな板の消毒、定期的に台所、冷蔵庫の中、食器棚等の清掃を行っている。	○	今後も清潔な台所で、新鮮で安全な食材を利用し調理していきたい。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（１）居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉の施錠はしてあるが、インターフォンを押してもらい職員が直に対応できるようにしている。近隣の方は、庭から声を掛け易くなっている。	○	さらに多くの地域の方々にとって、出入りしやすくできるよう検討していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ったりしている。障子を閉める等して光の調整をしている。また、ソファーを置き、ゆっくり過ごせるようにしている。	○	今後も、利用者、家族、他外来者の感想や気づきを取り入れ、検討して行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	東ホールと西ホール、畳コーナーと別れており、思い思いに過ごされている。	○	変化が負担にならない居場所が作れるか、今後検討して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し持込をされているが、十分ではない。	○	本人の希望を十分把握した上で、家族とも相談して行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間ホールの換気扇はついている。エアコンに頼るのではなく、自然な風が入るように調整している。居室、ホールには、室温時計が設置してある。	○	今後も職員が、随時居室やホールの温度を気に掛け、また、本人の状況に応じて、外気温と差が出ないように調整するようにしていく。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内や玄関は全てバリアフリーになっており、玄関の境が分かりづらい。畳コーナーは段になっており、腰掛けたり、畳コーナーにある物をに取ったり、障子の戸締りをしている。	○	一人ひとりの力を生かして動ける為には、何が必要なのか今後も検討して行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには遠くからでも分かるように、大きめの文字が書いてある。各部屋には、表札や目印が目線の高さに掛けてあり分かりやすくしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りは、畑や花が植えてあり、自由に散歩をし、花の水くれや野菜の収穫ができている。また、ベンチが置いてあり、日向ぼっこをしている。	○	より一層楽しく活動できるように、今後も検討して行きたい。

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ○ ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ○ ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

行事はもちろんそれ以外にも入居者の希望に沿った外出を取り入れ、四季を楽しまれ馴染みの方々との繋がりもなるべく継続でき、まだまだ不十分ではあるが地域の方々との繋がりや触れ合いも大切にしている。
外出を通して入居者は笑顔で楽しまれ、認知症になってもいきいきと生活出来ることをそれとなく地域にアピールしている。また、触れ合いを通して地域の方々に認知症を知ってもらうきっかけともなっている。
保育園や小中学校との交流もあり、特に保育園へは行事への参加や雑巾の寄付を通して認知症に対する考えを小さい頃から伝えられ、認知症になってもすみよい街づくりに少しでも貢献できていると思う。